

10 漢方の気剤で速やかな症状の軽快をみた疼痛患者2例

○松崎 茂（長野県立阿南病院外科）
松崎 敦（自治医科大学泌尿器科）
宮下裕文（福井保健所）

【緒言】長期にわたる疼痛を主訴とする患者の抑鬱傾向を目標に、漢方の「気剤」を投与し速効を得たので報告する。

【症例】症例1 64歳女性。5年の経過をもつ頸椎症による上肢の痛みと痺れで受診。初診の少し前に脳外科で手術を薦められたが拒否し、漢方治療を求め受診。これまでに、針灸なども試したが軽快しなかった。初診時からしばらくは痛みにも有効な漢方を色々と投与したが一進一退であった。初診から1年半経って治療に行き詰まった。「些細なことでくよくよしやすい、涙もろい」点から香蘇散を投与し、1週間で無理をしなければ気にならない程度に軽快。約6ヶ月の投与で廃業。その後は、疲れた時などに香蘇散を服用している。症例2 56歳女性。1年前からの左下肢痛で整形外科治療を受けるも徐々に悪化し、痛みのため夜間の睡眠も妨げられ、膝も曲がらなくなり人に勧められて受診。花屋を営んでいて冷所での仕事が多い。下肢に細絡著明。疎経活血湯と芍薬甘草湯を処方。しかし、同時に他院で針治療を受けたところ急激に悪化した。再診では「このまま歩けなくなるのでは」と悲観的に涙声で訴える。大腿前面に飛び上がるような握痛あり。九味榔榔湯内服3日で疼痛は多いに減じ、2週間でほぼ消失した。その後、疎経活血湯を併用し3カ月後に略治廃業とした。

【考察】疼痛を長期間患っている患者で、抑鬱的な訴えや雰囲気がある場合はこれを目標の一つとして治療すると、気分の問題と共に疼痛が消失することがある。